

---

# 子供向け百科事典にみる高度経済成長期の世界観

## Perspectives of the World as Depicted in Children's Encyclopedias from Japan's Period of Rapid Economic Growth

荒木 一視\*

ARAKI Hitoshi \*

(摘要)

高度経済成長期の子供向け百科事典に描かれた記載事項から当時の世界観を論じた。対象としたのは平凡社による『えほん百科』と小学館による『こども百科事典』である。両百科事典のアジア、ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、オセアニアの各項目に描かれたイラストや文字情報を、自然的事象、文化的事象、経済的事象の側面から検討した。アフリカにおける野生動物の記載など各地域ごとに特徴的な記載事項を認めることができた。また、動植物中心の自然事象の記載、資源論的な経済事象の記載など、当時の特徴的なスタイルも確認できた。それは当時のわが国の社会経済状況を反映しているとともに、今日に至る世界観にも影響を与えていると考えられる。

キーワード：子供向け百科事典、高度成長期、世界観、イラスト

(Abstract)

This paper is a discussion of perspectives of the world as depicted in children's encyclopedias from Japan's period of rapid economic growth. The encyclopedias studied were the Ehon Hyakka, published by Heibonsha, and the Kodomo Hyakka-jiten, published by Shogakukan Inc. In both encyclopedias, the illustrations and text accompanying articles about Asia, Europe, Africa, North America, South America, and Oceania, were studied from the perspective of natural, cultural, and economic phenomena. It was possible to identify characteristic articles for each continent, such as descriptions of wild animals in entries about Africa. In addition, there was a noticeable period style in entries such as those on natural phenomena focusing on flora and fauna, or entries on economics focusing on resources theory. This study suggests that the entries reflect Japan's socio-economic circumstances at that time, and that those perspectives of the world still have an influence on Japanese people's thinking today.

Keywords: encyclopedias for children, period of rapid economic growth, perspectives of the world, illustrations

### 1. はじめに

本論文では子供向けの百科事典の分析を通じて、高度経済成長期の日本の世界観を検討する。私達の暮らす世界をどのように認識し、どのように次世代に伝えていくのかということは、明治以降の地理教育が一貫して取り組んできたことである（荒木他、2006；中

山、1997）。それは中山（1996, p. 89）のいうように常に時代の申し子であったともいうことができ、国家意識や民族意識の確立や国民国家形成とも密接に関係してきた（石田、1966；島津、2002）。ここではそうした議論を受けて、高度経済成長期の日本がどのように世界を認識しようとしていたのか、またそれを次世

---

\* 立命館大学食マネジメント学部

*Journal of East Asian Identities* Vol. 6 March 2021 (pp. 1-23)

代を担う子供たちにどのように伝えようとしていたのかを明らかにしたい。

その際に、分析対象としたのは平凡社から1964～65年にかけて刊行された『えほん百科』（全12冊）と小学館から1970～71年にかけて刊行された『こども百科事典』（全8冊）である。いずれも高度経済成長期のものであり、その記述は当時の世界観を反映していると考えられる。こうした観点から上記の2つの子供向け百科事典において、世界がどのように記載、記述されているのかに着目した。具体的には各百科事典の世界地理に関わる項目、『えほん百科』では「アジア」「アフリカ」「アメリカ」（以上第1巻あいうえお→うお）「オセアニア」（2巻うさぎ→おりもの）「ヨーロッパ」（第12巻もくざい→わに）の各項、『こども百科事典』では「せかい」（第4巻さ→せ）の項目である。

双方ともに子供向けの百科事典であり、もとより文章での解説は少なく、図解や写真などを使った紙面の構成がなされている。とくに両百科事典ともに上記各項目では見開きを使って各地域の地図が示され、地図上に各地を象徴的に示すようなイラストが描かれている。文章による説明というよりも視覚的に把握させようとしているからであり、これによって当時の世界観、特に当時の子供たちに当時の大人たちが伝えようとした世界観を端的に把握できるのではないかと考えた。

そこで、本論文では以下の方法で両百科事典を分析した。まず、両百科事典の上記当該項目に描かれたイラストに注目し、そのイラストがその地域のどのような事象を取り上げているのかを把握した。具体的にはイラストで描かれるものが、(A)自然的事象、すなわちその地域の野生生物や自然景観などを描いているのか、(B)文化的事象、その地域の文化や習俗、暮らしなどを描いているのか、(C)経済的事象、その地域の産業や資源など経済に関わる事象を描いているのか、に大別した。さらに(C)は(C1)家畜を含めた農業や農産資源を描いているのか、(C2)その地域の水産資源をえがいているのか、(C3)その地域の林産資源を描いているのか、(C4)その地域の鉱産資源や工業を描いているのか、に細分した。なお、(D)上記の枠に当てはめにくい項目は(D)とした。たとえば、フラミンゴやパンダ、おおはしらサボテンなどの記載は(A)に、XX族、やYY人、スフィンクスやバリ島のおどりなどは(B)に、こむぎやわた、うし、ぶたなどは(C1)、さ

け、たら、にしんなどは(C2)、もくざいやパルプ工場は(C3)、せきゆ、せきたん、ダイヤモンド、製油所などは(C4)とした<sup>1)</sup>。

次に両百科事典のアジア、ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、オセアニアの各項目に示される地図上のイラストが、上記の7つのカテゴリーのいずれに相当するか、またそのイラストの描かれた位置がどこかを把握した。加えて、イラストだけではなく、地図上に記された文字情報も併せて把握した。文字情報は基本的には以下の2つに区分できる。第1は地名を表記したもので、第2は上記イラストの説明である。無論、説明といっても文章で解説されているわけではなく、ほとんどは「かつお」「もくざい」「せきゆ」などイラストが何を表しているかを示す単語である。以上の対象とした各項目の地図に描かれた文字情報とイラストの一覧を示したものが表1～表6である。また、それぞれのイラストが地図上のどこに描かれたのかを示したものが図1～図6であり、以下これらを検討するうえでの基礎とした。

なお、表中の表記に関わっては、いずれも典拠とした当時のこれら百科事典の表記にもとづいている。子供向けと言うこともあり、表中でも平仮名表記はそのままにしたが、論文の文中で使用するには適宜漢字表記を採用している。また、ソビエト連邦や南北ベトナムなど国名も原典にのっとり当時のままにしている。同様に、イギリス領サラワクや同マスカットオマーンなどの地域呼称やレニングラード（現サンクトペテルブルグ）などの都市名もそのままとし、必要に応じて初出箇所でもカッコ書きで現在の呼称を示した。さらにエスキモーなど今日では差別的なニュアンスを含むとされることばも掲載されているが、当時の用語法として分析の上ではそのまま示している。

具体的検討にあたっては、まず全体としての傾向を把握した上で、百科事典ごとに個別の地域の描かれ方の特徴を追った<sup>2)</sup>。次に百科事典ごとに各地域で描かれる対象を個別に取り上げて、次世代の子供たちに伝えようとした地域像がどのようなものであったかを検討する。

## 2. 全体の傾向

### 2.1 文字情報

ここで取り上げる文字情報には2つの種類ある。一つは地図上に表記された文字で、国名や地名のほか、「こむぎ」や「せきたん」などのイラストの説明であ

る。もう一つは地図に添えられたアジアやアフリカなど当該項目についての解説文である。前者は表1～表6の地図に表記された文字として、一覧表示される。また、後者については表7として示される。

前者については、総じて『こども百科事典』の記載量が『えほん百科』に比較して少ないということがいえる。これは『こども百科事典』のA4変形(20×27.5センチ)と『えほん百科』のB4という判型の違いにもよるが、イラスト地図の描き方に依存するところも大きく、『えほん百科』は緻密にイラストが描きこまれているためでもある。一方で後者の解説文については記述量には大きな差はない。

## 2.2 イラスト

表8は両百科事典に描かれたイラストを地域別と上記カテゴリー別に集計したものである。地図に描かれたイラスト情報は等分されるわけではなく、地域によって濃淡がみられる。例えば『こども百科事典』では、全イラスト217件のうち61件(28.1%)がアジアであり、最も少ないオセアニアの21件(9.7%)とは3倍近い開きがある。なお、それ以外の地域の占める比率は概ね10数%である。一方、『えほん百科』では全イラスト769件のうち南アメリカが最も少なく48件

(6.2%)である。これは同百科事典では南北アメリカが一つの地域として取り上げられていることもあるが、南北アメリカを合算しても132件(17.2%)と、他地域よりはやや少ない。逆に多いのはアフリカの199件(25.9%)、ヨーロッパの172件(22.4%)などであり、アジアは160件(20.8%)である。『こども百科事典』におけるアジアへの注目が明瞭であるものの、『えほん百科』ではむしろアフリカへの注目が指摘できる。

次にカテゴリー別の傾向であるが、『こども百科事典』では(A)の野生生物や自然景観などが23.0%、(B)の文化や習俗、くらしなどが26.3%、一方で、(C)の経済的事象は4割に達する。『えほん百科』では、さらにその傾向が明確で、(A)3割、(B)2割弱に対して(C)は44%となる。両百科事典で多少の比率の違いはあるものの、経済的事象が多いという傾向は概ね類似していると言える。

さらに両方の観点を照らし合わせると、地域ごとの特徴を読み取ることができる。まず『こども百科事典』であるが、アフリカや南アメリカでは(A)(B)(C)の各項目がほぼ同数であるが、北アメリカでは(C)が他の倍となり、経済的事象に厚い記載と言える。これは

表中の右端に示される全体の傾向と比べても高い。アジアやヨーロッパも同様に(C)が重視されるが、アジアでは水産資源、ヨーロッパでは林産資源や林業の比率の高いことを指摘できる。また、ヨーロッパにおける(A)比率の低さも特徴である。一方、オセアニアでは(A)が多く、(B)が少ないといえる。

『えほん百科』においても、アフリカやオセアニアでは(B)が約4割を占め、特にアフリカでは(A)(B)が地域別で最多となっている。逆に、(C)は少ない。南アメリカでは(B)が少なく、(A)が多い傾向があること、オセアニアでは(C)の少ないこと、北アメリカでは相対的に(B)比率の高いことなどが指摘出来る。ヨーロッパでは林業を始めとして(C)が重点的に記載されていること、(A)(B)が少ないことなど『こども百科事典』と共通する点も見受けられる。アジアでも(A)の少ないことと鉱工業を中心とした(C)の多いことを指摘できる。

総じて、両百科事典ともに文化、自然、経済の各項目が広く掲載されているものの、ヨーロッパでは林業や鉱工業、アフリカやオセアニアでは野生生物などへの注目がみとれる。逆にアフリカは林業や水産業との関わりではあまり注目されていないと言える。同様に南アメリカの林業や鉱工業への着目も低調である。(A)自然的事象に関しては『こども百科事典』ではアフリカとオセアニア、『えほん百科』ではアフリカ、オセアニア、南アメリカの比重が高く、アジア、ヨーロッパが低い。(B)文化的事象では『こども百科事典』でアフリカとヨーロッパの比重が、『えほん百科』で北アメリカの比重が高い。(C)経済的事象においては『こども百科事典』ではアジアの水産業、ヨーロッパと北アメリカの林業、アジアの鉱工業、『えほん百科』では北アメリカやヨーロッパの水産業、ヨーロッパの林業、アジアの鉱工業の比重が大きいことがうかがえる。逆に、アフリカの水産業(両方)、南アメリカの林業(こども百科事典)、アフリカの林業(両方)とオセアニアの林業(えほん百科)、南アメリカの鉱工業(えほん百科)の比重の小さいことがうかがえる。アフリカとオセアニアの(A)やヨーロッパの林業、アジアの鉱工業など共通する点も見られるが、(B)など両方で相違点もみられる。以下、百科事典ごとの詳細な検討をおこなう。

## 3. 『こども百科事典』に描かれる世界

同百科事典では第4巻に「せかい」の項目があり、

まず見開き2ページを使って世界地図（メルカトル図法）が示される。それに続く見開き2ページは「あじあ」と題され、全面にイラストを多用した地図が描かれアジア各地の特徴が示されている。また、片隅にはモルワイデ図法で描かれたアジアの位置も示されている。同様に続く見開き2ページでは同様にヨーロッパが描かれ、さらにアフリカ、北アメリカ、南アメリカと見開きを使って紹介される。最後にオセアニアが見開きではなく片側1ページを使って示され、都合13ページが「せかい」の項目に当てられている。また、表7に示すように各地域200-300字程度の解説文が添えられている。

### 3.1 アジア

表1～表6と図1～図6<sup>3</sup>に従って、各地域の掲載項目の詳細を把握したい。

第1はアジアであるが、すでに水産業や鉱工業の掲載が他より多いことを指摘している。具体的にそれらの記載を検討したい。まず水産資源であるが、さけ、ます、たらばがに、たら、かつおが挙げられいづれも西太平洋の水産資源として示されている。これ以外にはインド洋に描かれた漁船とまぐろのイラストがあるのみである。鉱工業についてはシベリアの工場地帯（図中の11）と上海付近に描かれた工場を除くと、いづれも石油関連のイラストで、スマトラ島のイラストを除くといづれも中東のイラストとなる。

文化的事象については、バリ島の踊りやシベリア地方の家、アンコールワットなど東アジアから東南アジアにかけてのイラストが多く、南アジアには掲載がない。その一方で南アジアはサイヤトラなど野生動物が多い他、水牛や綿摘み、紅茶など農業関係のイラストが特徴的と言える。また、中央アジアから西アジアにかけても農業関係の掲載が認められる。一方で林業のイラストは限定的で、シベリア北部と東南アジアに限定される。

### 3.2 ヨーロッパ

第2はヨーロッパで、林産資源と文化的事象のイラストの多さ、自然的事象の少なさに言及した。実際、野生動物としてはヒグマ、ヨーロッパバイソンが取り上げられるのみで、ほかには地名表記を伴わない山地のイラストとフィヨルドと思しき海岸景観にとどまる。一方で林産資源についてはソ連（当時）やフィンランドの森林や木材のイラストが認められる他、スウェーデンにはパルプ工場が描かれ、東欧にも針葉樹林が描かれている。文化的事象では北欧ではラップ人やス

キー、東欧ではウクライナの踊り、南欧ではアクロポリス神殿やシチリア島の遺跡、スペインの踊りや闘牛などがあげられる。

農業については東欧のライ麦、のほかオランダのチューリップ、デンマークやアイルランドの乳牛のイラストが認められる。鉱工業と水産業は限定的で、前者はウラル山麓の工業地帯、スコットランドの鉄工所のみ、後者はノルウェー沖のニシンとサケのみである。

### 3.3 アフリカ

第3はアフリカで、文化的事象と自然的事象の多さ、水産資源と林産資源の少なさを特徴として挙げた。実際、この百科事典では水産資源と林産資源の記述はない<sup>4</sup>。文化的事象では、スフィンクスやピラミッド、オアシスや砂漠の街、土の家といったイラストが北アフリカで確認できる。また、東アフリカではマサイ人、中部アフリカではピグミー族など各地にイラストが認められる。自然的事象においては、ゴリラ、シマウマ、ライオン、キリンなどの野生動物が中心で、ほとんどが南東部に集中する。それ以外には北部では山地や砂漠のイラスト、大西洋の魚類のイラストとなる。鉱工業についてはエジプトに石油積み出し港と思しきイラストと紅海を航行するタンカー、南部アフリカのダイヤモンドのイラストが確認できる。また、農業に関しては伝統的な農家やラクダによる耕起などのイラストと、バナナ、カカオなどの農作物が描かれている。

### 3.4 北アメリカ

第4は北アメリカである。カテゴリー別では概ね全体の傾向と一致するものの、林業に関するイラストが多いことが特徴であった。森林や木材とともに、パルプ工場のイラストもあるが、ほとんどがカナダの域内に描かれたものである。また、自然的事象のイラストもカナダをはじめとし、グリーンランドやアラスカに多く、ホッキョクグマ、ヘラジカ、トナカイ、カリブー、セイウチなどが描かれている。それ以外では米加国境のナイアガラ滝とメキシコのサボテンである。文化的事象では氷の家や犬ぞりなどの北極圏の暮らしが描かれるとともに、アメリカ合衆国ではディズニールランドやフロリダの海水浴などのレジャーが、メキシコではマヤの遺跡が取り上げられている。経済的事象では農業が多く、アメリカ合衆国中西部の小麦、南部の綿、西海岸の果実、キューバの砂糖とバナナが描かれている。一方、水産資源はハドソン湾のタラ、太平洋のサケ、鉱工業はシカゴに自動車工場と思しき工場

が描かれているのみである。

### 3.5 南アメリカ

第5の南アメリカでは林産資源の記載がないことを示した。それ以外では鉱工業が少なく、その他の明確に区分できないものが多かった。鉱工業はカリブ海沿岸部の石油のみであり、その他にはパナマ運河と4つ船のイラストである。文化的事象ではアマゾンの床の高い家、インカの遺跡、チチカカ湖の葦船、インディオの町に加えて、日本人の移民が描かれていることも興味深い。なお日本人移民のイラストは日の丸のついたトラクターで開墾、耕作している図柄である。いずれも南回歸線以北にえがかれ、それより南にはない。農業ではブラジルの牛とコーヒー、アルゼンチンの小麦、牛、ブドウ、水産資源では太平洋のアンチョビとシロナガスクジラとなる。

### 3.6 オセアニア

最後にオセアニアであるが、自然的事象のイラストの多いことを指摘した。ニューギニアのオオフウチョウ、オーストラリアのコアラ、エリトカゲ（エリマキトカゲ）、カンガルーなどの野生動物、グレートパイアリーのサンゴ<sup>5</sup>、ニュージーランド北島の間欠泉のほか、グレートディバイディング山脈やクック山が描かれる。文化的事象ではニューギニアの水上の家、アボリジニ<sup>6</sup>の他、飛行機で診察に行く医者や波乗りが描かれていることも興味深い。経済的事象では、農業としてオーストラリアの羊と小麦、ニュージーランドの牧畜と羊が、水産業としてはインド洋岸のブルームの真珠取りが、鉱工業としては自動車工場が描かれるほか、西部にも煙突のある工場と思しき建築物のイラストがある。

### 3.7 小括

2章の末尾において指摘した特徴に照らし合わせてみると『こども百科事典』では地域別ではアジアの重視、特に水産業や鉱工業を中心とした経済事象の記述の多いことを指摘した。その際の水産業の中心は西太平洋、鉱工業の中心は石油資源であった。また、林業や農業の記載、および東南アジアから東アジアを中心とした文化的事象、南アジアを中心とする自然的事象など一定の地域イメージを見てとることができる。ヨーロッパや北米の林業については前者では東欧と北欧、後者ではカナダが中心であった。一方、ヨーロッパの(B)に関しては北欧、東欧、南欧など各地に分散している。アフリカでも各地に分散して(B)が見られたが、北部ではスフィンクスや砂漠の暮らしを中心に

したものであるのに対し、それ以外は民族、部族の記載である。これはアジアの(B)が遺跡や暮らしが主となることとは異なる特徴である。また、アフリカとオセアニアの(A)については野生動物の記載が中心であった。

## 4. 『えほん百科』に描かれる世界

同百科事典は『こども百科事典』とは異なり、「アジア」「アフリカ」「アメリカ」「オセアニア」「ヨーロッパ」が独立した項目として取り上げられ、それぞれ見開き2ページを使って、イラストを多用した地図によって示されている。また、正積方位図法と思われる世界地図でそれぞれの位置が示されている。また、各見開きには自然事象を中心に数百字程度での解説文が示されている(表7)。

### 4.1 アジア

前章同様、表1～表6と図1～図6に従って、各地域の掲載項目の詳細を把握する。

第1はアジアで、すでに鉱工業のイラストの比重の高さと、自然的事象の少なさを指摘した。地域別に検討したい。まず、アジアロシアに相当する部分であるが、この地域では図1にしめすように図中灰色で示される鉱工業のイラストが多いことが特徴である。サハリンの石油に始まりシベリア各地の炭田、ウラル山麓の鉄や石炭、金などの地下資源のイラストが多い。それ以外ではトナカイ、ヘラジカ、ホッキョクグマ、ヒグマ、アザラシ、ウミガラス、オオワシなどの野生動物のイラストも多い。文化的事象ではケート人やカラガス人などの民族、氷の家やそりなどの北極圏の暮らしが描かれている。一方林産資源はシベリア各地に木材が描かれるものの、農業に関してのイラストはノボシビルスク周辺の小麦のみである。地下資源と野生動物に特徴的な描写である。

次にモンゴルを含めた、中国、朝鮮半島、日本の東アジアである。この地域では図中緑色で示す農業に関するイラストが目立ち、日本では北海道の農業と東北地方の稲、朝鮮半島でも稲、モンゴルでは羊や牛が描かれる。中国では東北部の大豆、西部の寒羊、羊、北京周辺の小麦のほか、華南に多くの稲のイラストが描かれている。農業以外には鉱工業と文化的事象が多く、前者には北九州の製鉄業をはじめ、中国東北部の石炭、西部の石油などがあり、後者には中山陵や万里の長城、モンゴルのパオ、チベットのポタラ宮など多くが中国における描写である。そのほか分類できない

ものとして、ダム建設や鉄道建設など、この地域でまさに開発が進められていることが象徴的に描かれている。

次いで東南アジアでは自然的事象のものが多く、タイハクオウムやヒクイドリ、キバタン、サイチョウなどの鳥類をはじめ、オランウータンやマレーバク、センザンコウなどの哺乳類、各所に描かれるヤシなどが挙げられる。農業ではフィリピンの麻、稲、タバコ、インドネシアやマラヤのバナナ、ゴム、稲、タイの稲がある。文化的事象ではバリ島の踊りやボロブドゥールの仏塔セレーベスタの水上の家などインドネシアの3件と大陸部ではアンコールワットとベグーのパゴダなどで、宗教や遺跡に関わるものが多い。また、鉱工業ではボルネオ島とスマトラ島の石油である。

南アジアでも、ガンジスワニ、インドゾウ、インドレイヨウ、インドトラなど野生動物のイラストが目立つ。文化的事象ではタージマハル、アジャンタの洞窟壁画、へびつかい、パーミヤンの大仏、農業ではパキスタンからインドにかけての牛、稲、綿とアフガニスタンからパキスタンにかけての小麦と羊、およびセイロンの茶が描かれる。一方、鉱工業ではインドの石炭のみである。インドに向けられる視線が野生動物と文化的事象が強かったことがうかがえる。

最後に中央アジア・西アジアではペルシャ湾沿岸の石油など鉱工業のイラストが目立つが、文化的事象と農業も多く、水ぎせるや絨毯、回教寺院、巡礼、遊牧民などこの地域の習俗に少なからぬ関心が払われていることが見て取れる。農業ではイランの小麦と羊、アラビアのナツメヤシとアラブ馬、トルコの小麦とブドウなどである。

水産資源に関してはほとんどが西太平洋に描かれたイラストで、キャッチャーボートや捕鯨母船、蟹工船、トロール船などの船舶の描かれていることが特徴的である。太平洋以外ではカスピ海の漁船（帆船）のみである。

ここまで、アジアロシアの地下資源、東アジアの農業、東南アジアと南アジアの野生動物、西アジアの石油などが特徴的である。一方、(B)は各地で描かれるものの、東アジアにおいては少ないことが指摘できる。

#### 4.2 ヨーロッパ

ヨーロッパでは水産資源や林産資源の多さ、自然的事象の少なさを指摘した。しかし、図2に見るように地域的な差が少なからずあると思われる。まず、ヨー

ロッパロシアを中心とした東欧では、林産資源のイラストと鉱工業のイラストの多いことがうかがえる。前者にはウラル山脈西側に広がる木材のイラスト、後者にはウラル山脈の石炭や石油、マグニトゴルスクの製鉄所が描かれているほか、レニングラード（サンクトペテルブルグ）の造船所、モスクワの自動車工場、ボルゴグラードの機械工場などが描かれている。また、ドニエツク（ドネツク）周辺には石炭、石油、製油所、ドニエプル水力発電所、カスピ海沿岸の製油所なども描かれ、ヨーロッパ全体の中でも林産資源と鉱工業の多くあることが特徴的である。なお、モスクワ周辺のアカマツとシラカバ、レニングラード周辺のトウヒは自然林とみなし、自然的事象のイラストとみなしたが、森林が多く描かれているという特徴を指摘できる。なおヨーロッパロシア以外の林産資源としては同じく東欧のユーゴスラビアとルーマニアの木材、フィンランドやスカンジナビア半島の木材、スペインのコルクガシのみで、この地域への集中がみられる。また、鉱工業に関してもヨーロッパロシア以外ではドイツの自動車工場と造船所、イギリスの石炭と造船所、東欧の石油と石炭のみとなる。以上がこの地域に特に集中するカテゴリーであるが、自然的事象や農業のイラストも多い、前者としては主にヨーロッパロシア北部のトナカイやオオカミ、ヒグマ、ノロといった野生動物とアカマツやシラカバ、キヌヤナギなどの植物である。他にもポーランドに描かれたアカシカやヨーロッパ野ウサギ、ヨーロッパバイソン、黒海沿岸の鶉がある。また、農業ではバルト海沿岸のカラスムギ、ジャガイモ、テンサイ、ベラルーシを中心とするカラスムギ、亜麻、牛、ウクライナを中心とするひまわり畑や小麦などであり、ドン川流域ではテンサイ収穫コンバインやコルホーズ穀物受取所なども描かれている。ほかに、ポーランドのタバコ、ブルガリアの羊のイラストがある。逆に文化的事象のイラストは少なく、白ロシアの踊りとその衣装、北極圏の皮なめしやラップ人、カレリアの教会、モスクワ東部の昔の物見櫓などである。この地域は北部を中心とする自然的事象と林産資源、ウラルやドニエツクを中心とした鉱工業、中央部から西部にかけての農業という認識がなされていたといえる。

次にスカンジナビア諸国（スウェーデン、ノルウェー、デンマーク）にフィンランドとアイスランドを加えた北欧であるが、自然的事象と水産資源のイラストが特徴的である。前者についてはスカンジナビア

半島のトナカイ、ビロードキンクロ、ヘラジカ、キツネ、ウミガラス、シロカモメ、さらにフィンランドのリス、アイスランドのアザラン、ハシブトオーク、トウゾクカモメなどの野生動物が中心である。また、後者についてはノルウェー沖のコダラ、ニシン、サケ、アイスランド周辺のニシン、アカスズキ、タラなどである。それ以外では林産資源としてフィンランドとスウェーデンの木材、ストックホルム南方の紙、文化的事象としてラップ人とその家、ノルウェーのボス

(Voss) 地方の女性と教会、スウェーデンの輪廻植物園が描かれている。農業は限定的でスウェーデン南部の小麦とデンマークの牛のみである。自然的事象と水産資源を中心とした認識といえる。

次に英独仏を中心とした西ヨーロッパである。ここでは先に示したようにイギリスとドイツに鉱工業のイラストが集中的に見られる。イギリスでは石炭、造船所に加え、火力発電所と原子力発電所が描かれている。ドイツでは自動車工場、造船、製鉄である。これに加えて、ヨーロッパの中では文化的事象のイラストが多いことも指摘できる。多くはフランスに描かれ、アミアンの大聖堂、パリの凱旋門、巡査、ポルドーの官の門、南部の水道橋の遺跡や海水浴場などで、ほかにドイツの海水浴場とホーレンフェルス城がある。また、農業のイラストも多く、イギリスでは羊、小麦、エール（アイルランド）の牛、ドイツでは牛、ブドウ、小麦、フランスでは牛、羊、ブドウなどである。家畜とワイン原料としてのブドウが特徴的である。一方で自然的事象は限定的で、スコットランドのウミガラス、エールのネズミガン、フランスのシュバシコウ、フラミンゴと鳥類に限られる。また、水産資源はブルターニュ沖のサバのみとなる。ヨーロッパの中では文化的事象と鉱工業を代表する地域といえる。

最後にスペイン、ポルトガル、イタリア、ギリシアおよびアドリア海沿岸諸国を含めた南欧である。この地域の特徴は農業のイラストの多さであり、イベリア半島のブドウ、小麦、羊、レモン、オレンジ、イタリアのブドウ、小麦、オレンジ、ユーゴスラビアの羊、タバコ、ギリシアのオレンジ、レモンなどであり果樹栽培が特徴的である。これに次ぐのが自然的事象でピレネー山脈のヤギ、スペインのオナガやバーバリ猿（バーバリマカク）、サルジニア島のムフロン、地中海のマイルカ、アルバニアのキョウチクトウ、ギリシヤのハゲタカである。バーバリ猿やムフロンなどあまり耳にすることのない動物が挙げられている。文化的

事象はシチリア島の古い城跡とスペインの闘牛のみで、西ヨーロッパに比べてイラストは少ない。水産資源は地中海の漁業とマグロ、林産資源はユーゴスラビアの木材とスペインのコルクガシのみで、鉱工業に関する描写はない。

ここまで東欧と英独の鉱工業、東欧・北欧の林産資源、大西洋岸の水産資源、各地に広がる農業の記載が特徴として指摘できる。

### 4.3 アフリカ

次にアフリカは、自然的事象の多さと、林業や水産資源の少なさを指摘した。また、表8に示したように、掲載イラスト数が最も多いのもアフリカである。実際、図3に見るように稠密にイラストが描きこまれていることがうかがえ、特に中部アフリカから東アフリカで顕著で、自然的事象のイラストも多い。まず、北アフリカであるが、当地はアフリカの中では自然的事象のイラストが少ない。目立つのが文化的事象と農業である。前者はエジプトの帆船、ピラミッド、スフィンクスなどのほか、粘土づくりの回教寺院、オアシス、土や粘土の家屋、砂漠のバスやラクダのキャラバンなど乾燥地帯を象徴するイラストが多数見られる。また、ダナギール（Danakil ダナキル人、アファル人）族、ヌーバ（Nuba ヌバ）族、シルク（Shilluk シルック）族、ディンカ（Dinka）族、トアレグ（Tuareg トウアレグ）族、ベルベール（Berbers ベルベール）族、ソモノ（Somono）族、あるいは帰化したアラビア人などの民族のイラストも多い。農業に関してはナイル河畔のトウモロコシや綿に加え、荷車に乗ったり家畜で工作する伝統的なスタイルの農夫の姿が描かれている。地中海沿岸ではナツメヤシ、小麦、ブドウ、トウモロコシ、オリーブなどで、特にナツメヤシは複数箇所に描かれている。自然的事象もそれなりに掲載され、紅海のガンギエイのほか、トムソングゼルやアバックス、バーバリシープ、ヤマアラシ、ライオン、マダラハイエナなど草原や乾燥帯の野生動物が描かれ、スーダンにもナイルワニ、クロサイ、ヒロハシコウノトリ、シロアリの塔などが描かれる。また、ティバスティ山地やホガール山地などの地形のイラストも認められる。鉱工業としてはエジプトの石油、製油所、油送船、スーダンの金、林産資源としてはスーダンのアラビアゴムのイラストがある。

次に西アフリカでは文化的事象は少なくなり、自然的事象と農業が主となる。前者ではハゲワシ、フェ

ネックギツネ、バオバブ、ダチョウ、ライオン、ヘビクイワシ、ツノマムシ、アカシア、エランドなどの草原の野生の動植物が並ぶ。後者はナンキンマメ、トウモロコシ、綿、稲、バナナ、カカオなどであり、ナンキンマメやカカオはココアの積み出しやカカオの実を割るイラストなども含めて複数取り上げられている。文化的事象はカヌーリ (Kanuri カヌリ) 族の小屋、ソコト (Sokoto) 族の家、ペペル (Pepel) 族の踊りなどいずれも民族の暮らしが取り上げられている。鉱工業としてはナイジェリアの石炭、コートジボアールの金が描かれている他、林産資源としてガーナ、トーゴに木材が描かれている。

次に中部アフリカであるが、自然的事象のイラストが多い。チャドのヌビアキリン、マルミミゾウ、中央アフリカの竹、ボンゴ、カメルーンのヨウム、アカイノシシ、ヤシ、コンゴのアフリカゾウ、オカピ、コンゴクジャク、チンパンジー、ゴリラ、バオバブ、カバ、クロサイ、アンゴラのカバ、ブッシュバック、バオバブ、ダイカー、ロカイ (蘆薈 アロエ) など多様な動植物が描かれている。文化的事象ではチャドに牧民のイラストが描かれている他、サラ (Sara) 族、ピグミー (Pygmy) 族、バベンデ (Pende) 族、ワルア (Baluba ルバ) 族、バンツー (Bantu バントゥー) 族、オアンボ<sup>7</sup>族、などの民族とその暮らしぶりであり、文化人類学的な色彩が強い。農業ではカメルーンのパナナ、コンゴのパナナ、アンゴラのナンキンマメ、バナナ、モロコシ、鉱工業としてはコンゴのダイヤモンドである。また、林産資源としてはカメルーン沖に木材の積み出しが描かれている。

東アフリカも自然的事象が多いものの、文化的なものや農業のイラストも多い。ソマリアからエチオピアにかけての東アフリカ北部ではソマリロバ、ダチョウ、ゲレヌク、チーター、マントヒヒ、ヘビウ、ケニアからウガンダにかけての東アフリカ中部ではハゲコウ、アフリカ水牛、アフリカゾウ、タンザニアから、モザンビーク、ザンビア、ローデシアにかけての東アフリカ南部ではマサイキリン、ワリト牛、ゲレザ、フラミンゴ、セーブルアンテロップ、カンムリワシ、ダマラ牛、ホオジロカンムリヅルなどが描かれる。文化的事象では北部のソマリ (Somali) 族、ガラ (オロモ Oromo) 族、中部ではキクユ (Kikuyu) 族、マサイ (Maasai マーサイ) 族、ワッシ (?) 族、南部ではマクア (Makhuwa) 族、ズル (Zulu ズールー) 族などとその暮らしが描かれ、ここでも文化人類学的

な描写が強く見られる。農業は北部で羊、コーヒー、中部で綿、南部でココヤシ、タバコなどが描かれている。鉱工業はザンビアの鉄鋼業と金である。

南部アフリカも自然的事象のイラストが多く、マングローブ、バオバブ、シマウマ、シロサイ、ポンテボック、ケープペンギン、ミナミオットセイ、ダブチオン (Daption capense マダラフルマカモメ)、ミズナギドリなどの動植物が描かれる他、南アフリカのテーブルマウンテンなども描かれている。それ以外では文化的事象と鉱工業で、農業のイラストはない。文化的事象ではヘレロ (herero) 族、ブッシュマン (San サン) 族、鉱工業では金と石炭、ダイヤモンドである。

マダガスカルでは自然的事象と農業が中心で、前者はシマオキツネザル、タビビトノキ、シュモクドリ、インコ、後者はバナナ、タバコ、牛、稲、サトウキビであり、コモロ諸島にはシーラカンスも描かれている。この他、大西洋やインド洋にはシャチ、バンドウイルカ、アオザメ、トビウオ、アホウドリなどの野生動物が描かれるとともに捕鯨船のイラスト、南西アフリカ沖の伝統的な漁業の様子も描かれている。

ここまで北アフリカを別にして、それ以外の西アフリカ、中部アフリカ、東アフリカ、南部アフリカいずれにおいても(A)の記載の多いことが特徴であり、(B)は北アフリカを含めた全体で多くの記載が認められた。

#### 4.4 北アメリカ

北米については文化的事象と水産資源の多さを指摘したが、図4からは描かれたイラストの種類的地域的な偏在が認められる。グリーンランドやカナダ北部およびアラスカといった北極圏とその周辺に関しては自然的事象と文化的事象のイラストがほとんどで、それ以外はハドソン湾のタラ、ユーコン準州の金のみである。まず、この地域の自然的事象のイラストとしてはグリーンランドのシロカモメやホッキョクグマ、ハーブアザラシ、バフィンランド (バフィン島) のセイウチ、北西準州やヌナブト準州に描かれるフイリアザラシ、ホッキョクギツネ、ジャコウウシ、シラカバ、アラスカに描かれるヘラジカ、トナカイ、ロッキーヤギなど多くが野生動物である。また、文化的事象では北極圏のエスキモーの暮らしが3カ所で描かれるほか、ナスカピ (Naskapi) 族、チペイワ (Chippewaチペワ) 族、オブジワ族 (Ingalik) 族などの先住民やトーテムポールなどのイラストも特徴的である。また、グリーンランド南部に「982年にノルマ



ン人エリックがグリーンランドに上陸」とのイラストがあるのも興味深い。

カナダ南部では林産資源としての木材のイラストが3件と多く、北アメリカの林産資源に関するイラストの全てである。ほかには文化的事象のイラストとしてのオタワ族、自然的事象のバイソン、農業としての小麦・製粉工場が描かれている。

アメリカ合衆国部分では(C)とくに農業と鉱工業の比率が高い。前者は中西部が中心でシカゴ周辺の豚と屠殺場から、カラス麦、小麦、トウモロコシのイラストが描かれ、太平洋岸には羊、南部には綿とカウボーイが描かれている。後者ではアパラチア炭田と思しき石炭、五大湖周辺の造船所や自動車工場、テキサスの石油、製油所カリフォルニアの石油などのイラストが認められる。それ以外の文化的事象では東海岸の自由の女神やホワイトハウス、フロリダの海水浴場、西海岸では金門橋とハリウッドのイラストなどであり、他所で見られた先住民やその暮らしに関わるものはメキシコ国境に描かれたアパッチ (Apache) 族のみである。

メキシコと中米諸国では自然的事象と文化的事象が多くなり、前者はメキシコのウチワサボテンとオオハシラサボテン、カリフォルニア半島のオオアジサシ、ニカラグアのブラジルバクである。後者はマヤの遺跡などが3件とパナマ帽で、基本的にはマヤ遺跡に集中しているといえる。

最後にカリブ海諸国であるが、農産物のイラストが多数あり、サトウキビ、タバコ、綿、バナナ、パイナップルなどが描かれている。文化的事象ではドミニカの野菜売りの他に「1492年にコロンブスが西インド諸島に上陸」とのイラストがあるのも興味深い。

以上のように、各地域によってイメージされる事象が特化している傾向が見られる。すなわち、北極圏やカナダでは(A)(B)、アメリカ合衆国では農業や鉱工業、中米では(B)、カリブ海沿岸では農業である。

#### 4.5 南アメリカ

南米については自然的事象の多さと鉱工業の少なさを指摘した。実際に図5からもブラジルペルー、チリなどに自然的事象のイラストの多いことがうかがえる。また、農業のイラストも各地に見られ特にアルゼンチンに集中していることがわかる。一方、文化的事象のイラストはペルーからボリビアにかけての限定的である。まず、自然的事象であるが、ブラジルではアオボウシインコ、メガネカイマン、ボア、オオアリク

イ、ワニ、ハナグマ、ジャガー、ピューマなど野生動物が多く挙げられるほか、アルゼンチン国境のイグアスの滝なども描かれている。アンデス山脈沿いにはブラジルバクとビクーナ、太平洋岸にはフンボルトペンギン、パタゴニアアシカ、キングペンギン、マゼランペンギンなどの野生動物が描かれるほか、ガラパゴスペンギンやミズナギドリも太平洋上に描かれている。また、フォークランド諸島にはイワトビペンギンが描かれている。農業については、アルゼンチンに集中し、同地のイラストの全てが農業のイラストである。馬、羊、ブドウ、トウモロコシ、小麦などである。ブラジルでは南部の牛、サンパウロ周辺のコーヒーや小麦、北東部のコーヒーとタバコ、アマゾン川流域の綿とゴムである。またベネズエラ国境にもゴムが描かれるほか、ベネズエラにカカオ、コロンビアにトウモロコシが描かれている。商品作目や牧畜のイメージが強いともいえる。文化的事象は大西洋の「いかだでくらすゴヤタカ族 (Goitaca)」とブラジルのボロロ族のイラストを除き、ペルーとボリビアに纏まって描かれ、マチューピチュー、チャンカ (Chanka) 族、チチカカ湖の葦船、アイマラ (Aymara) 族が取り上げられている。先住民の暮らしが中心であるが、数あるグループの中からなぜこれらが取り上げられたのかはわからない。一方で、鉱工業はマラカイボ湖周辺の石油のみ、林産資源はガイアナやスリナム周辺に描かれる木材のみである。また、水産資源はガイアナ沖の漁業と太平洋のマッコウクジラのイラストである。アルゼンチンの農業や、ブラジルの野生動物、アンデスの伝統文化など地域的に描かれるイラストの傾向が認められる。

ここまで、全体的に(A)の記載の多いことを指摘できるが、アルゼンチンでは農業、ペルーやボリビアでは(B)の記載が特徴的である。また低緯度帯の農業ではプランテーション作物が多いことも認められた。

#### 4.6 オセアニア

オセアニアについては自然的事象の多さと林業の少なさを指摘した。実際に図6からは自然的事象のイラストが至る所に描かれていることが一目瞭然である。まず、ニューギニア島ではヒクイドリ、オオフウチョウ、マングローブ林、ニューギニアイノシシ、ピスマーク諸島からソロモン諸島にかけてはココヤシ、タコノキ、インコなどが複数描かれているほか、ソロモン諸島には活火山も描かれている。またサンゴ海のオナガザメ、ニューカレドニアのヘイワインコなどもあ

る。オーストラリア大陸ではクイーンズランド州のココヤシ、サンゴ、バンレイシ（蕃荔枝）、ユーカリ、北部準州のタコノキ、ワラルー、ニューサウスウェールズ州のウォンバット、ワライカワセミ、ビクトリア州のヘラサギ、コアラ、カモノハシ、コクチョウ、タスマニア州のイワトビペンギン、南オーストラリア州のアカシア、アカカンガルー、ミナミアシカ、西オーストラリア州のイリエワニ、タコノキ、ハイイロカンガルー、アカシア、イワトビペンギン、コビトペンギン、アオツラカツオドリなどの動植物のほか、砂漠や草原といった自然景観など多数のイラストがある。なお、ニュージーランドは比較的少なく、北島の活火山と南島のキウィが描かれている。これについて多くのイラストがあるのは文化的事象と農業で、前者はおもに太平洋島嶼部に多く、後者はオーストラリア大陸に多く描かれている。ニューギニア島の教会、パプア族、水上の家や樹上の家、くり船、ビスマーク諸島の原住民、ソロモン諸島の水上の家、メラネシア人などのほか、太平洋上に「ヤシの葉で編んだ帆をかけた2艘筏カヌー」も描かれている。主に現地の人々の伝統的な暮らしが中心である。逆にオーストラリア大陸での文化的事象の記載は多くはない。西オーストラリア州のオーストラリアネグロと輸入したラクダによるキャラバン、ニューサウスウェールズ州のバーバブリッジと海水浴場の4件であり、ニュージーランドではマオリ族のみである。一方で農業のイラストが多いのがオーストラリア大陸でクイーンズランド州のバナナ、羊、牛、ニューサウスウェールズ州の小麦、ビクトリア州のメリノ羊、北部準州の牛、西オーストラリア州の羊、リンゴ、小麦、タスマニア州の果物などがある。太平洋島嶼部ではニューギニア島の綿、タバコ、ニューヘブリジーズ諸島のパパイヤとフィジー諸島のバナナ、ニューカレドニアのコーヒーがあり、ニュージーランドでは北島の牛、南島の羊が描かれている。それ以外ではオーストラリア大陸で鉱工業のイラストが若干あり、ニューサウスウェールズ州と西オーストラリア州の金、シドニーの近くの石油や石炭などの地下資源が中心である。林産資源ではブリスベーンの近くに木材が描かれるのみである。また、水産資源に関してはニューヘブリジーズ諸島とダーウィン近くの真珠とり、および南氷洋の捕鯨が描かれている。

ここまで、(A)の多さを指摘できるが、(B)は島嶼部、農業ではオーストラリア大陸部に集中して見られることが特徴的である。

#### 4.7 小括

2章の末尾において指摘した特徴に照らし合わせてみると『えほん百科』では、地域別ではアフリカの記載の多さが指摘できた。また、アフリカ、オセアニア、南米での(A)の重視、北米での(B)比率の高さ、北米とヨーロッパの水産業、ヨーロッパの林業、アジアの鉱工業などが特徴的であった。以下、具体的な検討の結果を地域別に示したい。まず、アジアではアジアロシアと西アジアの地下資源（特に後者は石油）、東アジアの農業、東南アジアの野生動物が目立った。その一方(B)は各地に暮らしや遺跡、民族などの記載が見られるものの東アジアでは少ないことを指摘できる。ヨーロッパでは東欧や英独の鉱工業、東欧と北欧の林産資源、大西洋岸の水産資源のほか各地の農業の記載が特徴的に多く、(C)が目立つ。(A)は北欧(B)はフランスなど限定的な地域での記載にとどまる。アフリカの記載量が多いことはすでに示したが、(A)(B)がその中心である。(A)は北アフリカではやや少ないものの、それ以外では全域で、(B)は全域で広く記載が認められた。また、(A)では野生動物、(B)では民族的な記載が中心となっている。その際、植物の記載も少なからず見られるが圧倒的に多いのは野生動物である。ライオンやダチョウ、ゴリラ、カバ、キリンなど一般によく知られたものだけでなく、ツノマムシやフェネックギツネ、ゲレザなど一般的ではない物も少なからず描かれる。アフリカが野生動物の王国であるというイメージと通じるものを見てとることができる。

次に、北米ではカナダや北極圏では(A)の野生動物と(B)の先住民の暮らしが中心で、アメリカ合衆国では農業や鉱工業、メキシコや中米諸国では(B)のマヤの遺跡の記載、カリブ海諸国ではバナナ、タバコ、さとうきびなどの農業の記載が特徴的であった。また、水産業は大西洋岸に集中している。南米では(A)が多いことが特徴的であるほか、アルゼンチンでは農業、ペルーやボリビアでは(B)のインカの遺跡や民族の記載を指摘できる。また、(A)の中では特にペンギンを中心とした鳥類が多いことも指摘できる。オセアニアの場合も(A)は各地で見られるが、カンガルーやペンギンなどの野生動物が多く確認できるほか、マングローブやココヤシ、タコノキ、アカシア、ユーカリなどの植物、またサンゴや活火山など景観に関わる記載が少なくないことが特徴である。逆に(B)は島嶼部の暮らしが中心で、農業はオーストラリア大陸部に

集中している。

前章の『こども百科事典』とは差異が認められるが、野生動物を中心としたアフリカなど今日に至るまでの地域のイメージを形成したのではないかと考えられる特徴も認められた<sup>8</sup>。

## 5. むすび：高度経済成長期のアジア観に注目して

高度経済成長期に刊行された子供向け百科事典の記事から当時の世界観を読み解くことを試みた。当然のことであるが、そのイラストの描かれた場所にそのものだけがあるわけではない。ある文化的事象が描かれた場所にも自然的事象は存在するし経済的事象も存在する。例えば双方の百科事典で日本には富士山が描かれるが、そこには富士山だけが存在しているわけではない。同様に、野生動物が描かれていてもそこには野生動物しかいないわけではなく、地下資源が描かれていてもそこには地下資源しかないわけではない。それは私たちが様々な事象がある中でその地域の何を見ようとしているのか、何に見るべき意義を見出しているのかを端的に示すものでもある。このような立場から、前章までに個別の記事事項を検討してきた。個別の地域の特徴をここで再び紹介することはしないが、高度経済成長期の子供向け百科事典の全般的な特徴として以下を指摘できる。

(A)の自然的な事象に関しては野生動物の記事に代表されるように、特徴的な動植物が中心として描かれている。その一方で、地形をはじめとした自然景観的な記事は限定的であり、今日いわゆる「世界自然遺産」といわれるような地域を単位として認識するという観点は希薄である。(B)の文化的な事象に关しても、XX人やYY族などの民族の記事が多いことを指摘できる。異文化・異文化理解の議論については近年盛んに取り上げられるが、この時代の子供向け百科事典にもその一端を認めることができる。しかし、そこに示される事象はアフリカの諸民族やアメリカの先住民などが特徴的に多く、東アジアでの文化的事象の記事は少なく、先住民の記事を除けば南北アメリカの文化的事象の記事も少ないのが実際である。そこには東アジア間での文化の違いや日本と英語文化圏での文化の違いという文脈は認めにくい。(C)の経済的事象については資源の記事が中心であることを指摘できる。工業や工場、大都市が描かれるというよりも、地下資源や林産資源、水産資源の記事が中心である。産業の立地

というよりも、どこにどのような資源があるのかという視点を認めることができる。こうした視点は戦前の資源論的な見方を汲むものともいえる。資源論は戦後、特に高度経済成長期を境に地理学研究の場からは姿を消すのであるが(荒木, 2018)、子供向けの百科事典にその一端を垣間見ることができることは興味深い。

アジアについてみれば、決して他地域に比べて記事事項が分厚いわけではない。実際に、『こども百科事典』にはアジアの記事が多いという側面は認められたが、『えほん百科』ではむしろアフリカの記事の分厚さが特徴的である。むしろ、各地域ごとに均等な記述が試みられているようにも見える。直接の比較対象とすることは難しいが、戦前期には世界地誌関係の文献に中に占めるアジアの比率が圧倒的であったことを勘案すると(荒木, 2018)、こうした世界各地に対して満遍なく知識を提供しようとするスタイルに留意しようとしていることがうかがえる。特定地域に偏ることのない情報提供の重視という側面である。

しかしながら、記載項目に着目したとき、地域情報の偏りは既に見たように少なからず確認できた。アフリカにおける野生動物や民族の記事の多さなどである。アジア、特に東アジアでは自然的事象(A)や文化的事象の記事(B)が少ない。そこに描かれるのは農業資源や地下資源が中心である。これらは当時の日本の社会経済的状況を反映していると考えられることもできる。すなわち、加工貿易を軸に経済成長を遂げようとする状況下で、様々な資源の分布という観点から世界を把握しようとしたことは当然であろうし、ようやく公害問題が広く議論され始めた当時であって、環境という認識がまだ希薄であり、自然的事象は特徴的な動植物の存在として把握されるのも当然であったと言える。

最後に、『こども百科事典』の編集委員として地理学者の浅香幸雄の名前が上がっている。浅香は戦後間もなく『食物の地理』(浅香, 1946)を記し、食糧難を乗り越えるために、世界にはどんな食べ物があり、どこで何を食べているか、どんな食べ方をしているか、生産の方法は、需給や輸出入はどうなっているかを理解することが重要であると説いた。彼は高度経済成長の只中で、将来の日本の発展のためにはどのような知識や正解感を若い世代に託そうとしたのか。本論文はその一端を垣間見るものかもしれないが、将来のためにどのような知識や世界観を次世代に伝えていくのか

ということは、常に問い直し続けけるべき課題である。高度経済成長期の世界観を振り返ることは今日の自身の世界観を問い直すことでもある。

## 文 献

- 浅香幸雄 (1946) 『食物の地理』愛育社。  
 荒木一視 (2018) 『経済地理学文献総覧』にみる戦前の経済地理学の枠組みと研究動向。『近代日本のフードチェーン』163-191, 海青社。  
 荒木一視・川田 力・西岡尚也 (2006) 『小学生に教える「地理」 先生のための最低限ガイド』ナカニシヤ版。

- 石田龍次郎 (1966) 皇国地誌の編纂—その経過と思想—。一橋大学研究年報 社会学研究, 8, 1—61。  
 島津俊之 (2002) 明治政府の地誌編纂事業と国民国家形成。地理学評論, 75, 88—113。  
 中山修一 (1996) 『地誌学と地域研究の在り方に関する日本的解釈の展開』地誌研年報, 5, 77—92。  
 中山修一 (1997) 『近・現代における地誌と地理教育の展開』広島大学総合地誌研究資料センター。

<sup>1</sup> 無論、ここに示したカテゴリーには明瞭に区分できないものも含まれている。たとえば「チーク材を運ぶゾウ」というイラストは、チーク材に着目すれば林産資源といえるし、ゾウに着目すれば家畜（農産資源）とみることもできる。はたまた、当地のゾウが暮らしの中にとけこんでいるという文化的事象とらえることもできる。ここでは林産資源として把握したが、同様に分類が厳密なものではないということを付記しておく。ただし、多くの項目は概ね上記のカテゴリーに分類することができた。

<sup>2</sup> 南北アメリカに関しては『えほん百科』では見開き2ページに南北アメリカをまとめて掲載しているのに対し、『こども百科事典』では見開き2ページで北アメリカを、別の見開き2ページを使って南アメリカを掲載しているが、ここでは別々に扱った。

<sup>3</sup> アジアやヨーロッパ、あるいは北米や南米の範囲に

ついて恣意的な見方が入ることを避けたい。ここではデザインエクステンジ社の提供する白地図 mapio の地域図を原図として使用した。このため、一部記号が図の外側に振られている場合がある。

<sup>4</sup> トビウオやアオザメが描かれているが水産資源としては把握しにくく、野生動物と位置付けた。

<sup>5</sup> ただし、描かれているサンゴは造礁サンゴではなく、いわゆる宝石としてのサンゴである。

<sup>6</sup> 原典ではどじん（土人）と表記されている。

<sup>7</sup> Ovimbundu オヴィンブンドのことと思われるが、あるいは都市名のウアンボ（Huambo）か。

<sup>8</sup> これら2つの百科事典が地域のイメージを形成したというよりも、当時の地域イメージが子供向けの百科事典に発現したという方が適切と思われるが、この時期にすでに各地の地域イメージが構築されていたといえる。

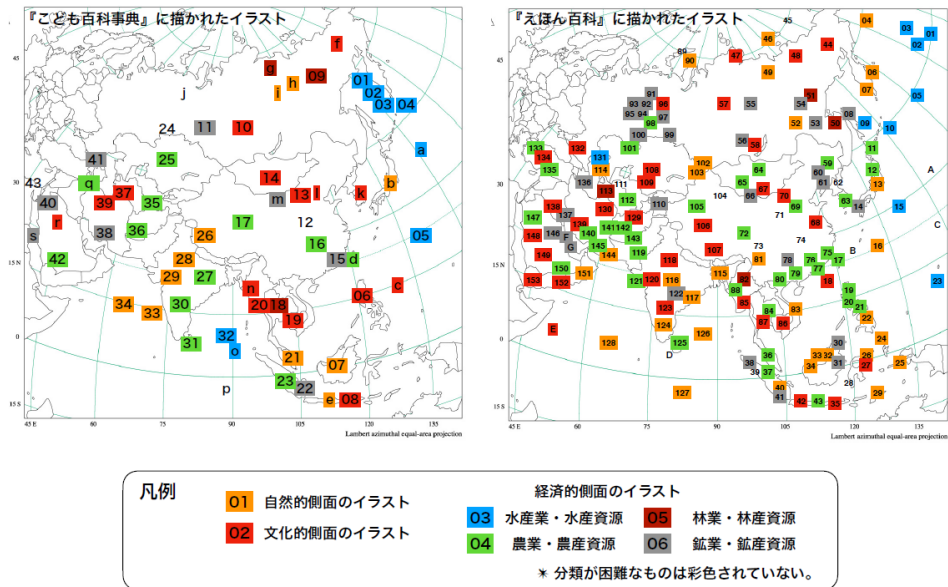


図1 子ども向け百科事典のアジアの項に描かれたイラストとその位置

注：地図中の英字・数字は表1の英字・数字と対応する。

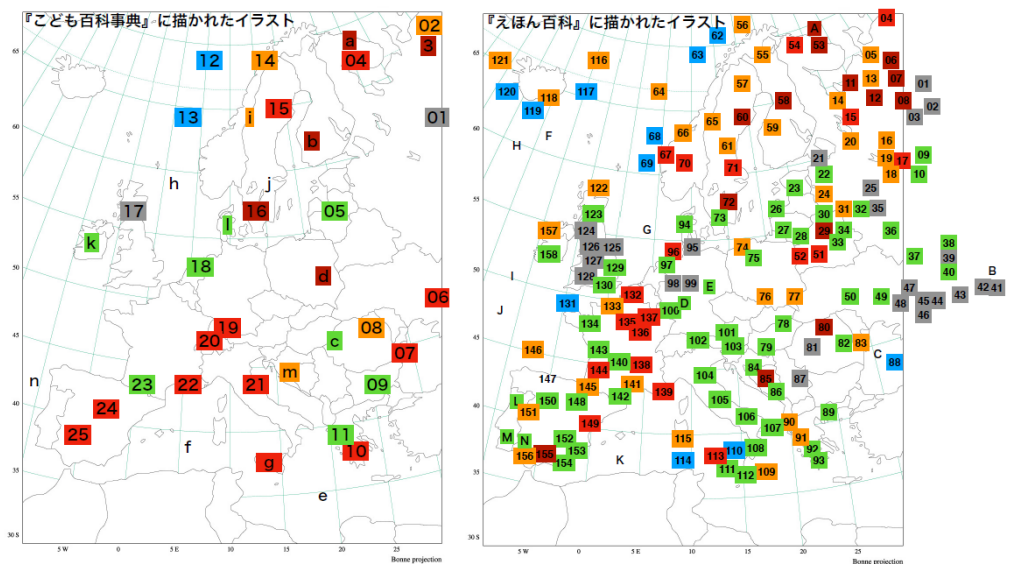


図2 子ども向け百科事典のヨーロッパの項に描かれたイラストとその位置

注：地図中の英字・数字は表2の英字・数字と対応する。

凡例は図1に同じ。

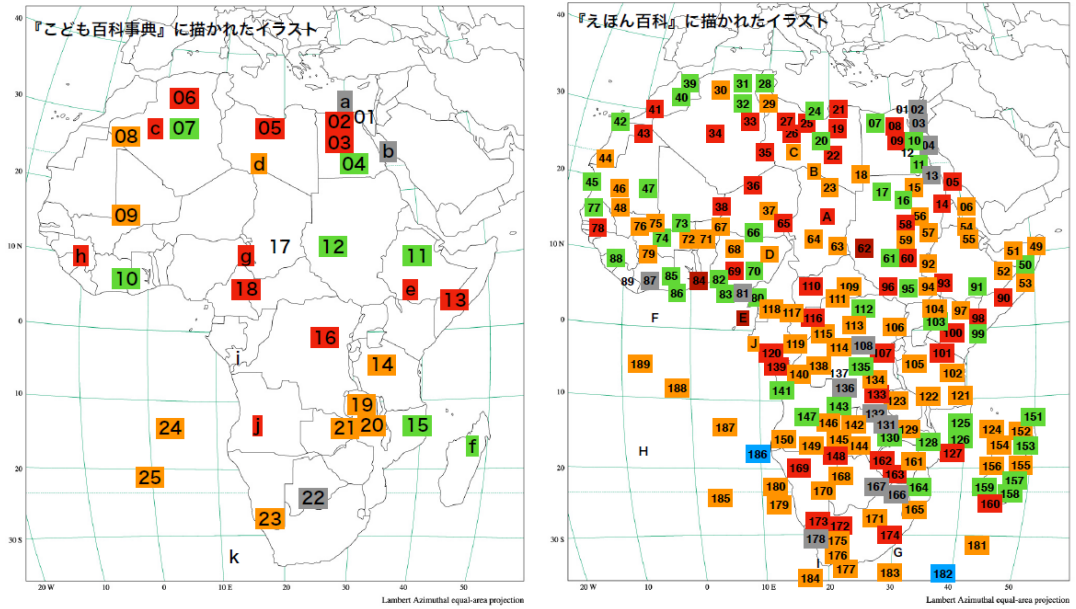


図3 子ども向け百科事典のアフリカの項に描かれたイラストとその位置

注：地図中の英字・数字は表3の英字・数字と対応する。  
凡例は図1に同じ。

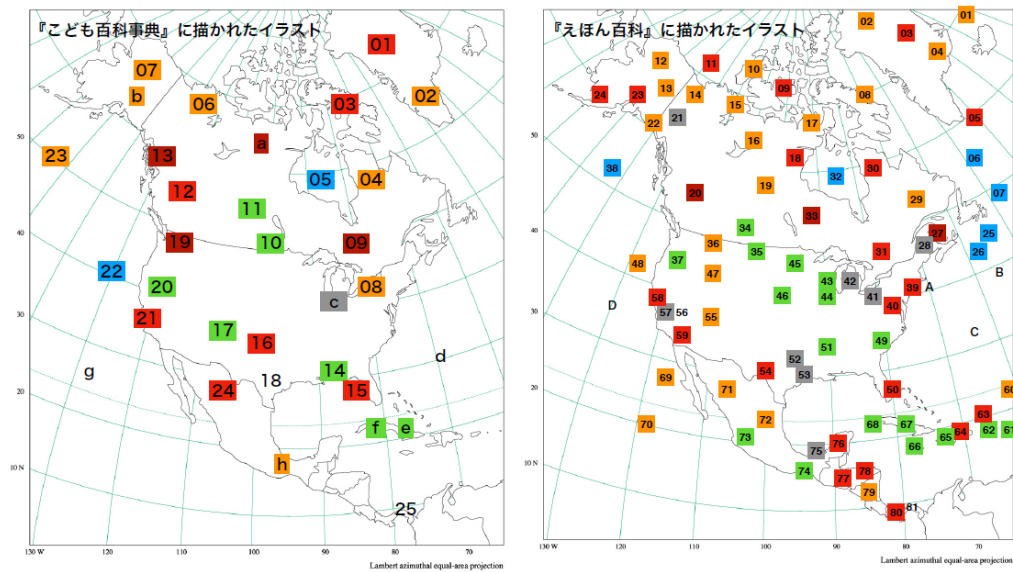


図4 子ども向け百科事典の北アメリカの項に描かれたイラストとその位置

注：地図中の英字・数字は表4の英字・数字と対応する。  
凡例は図1に同じ。

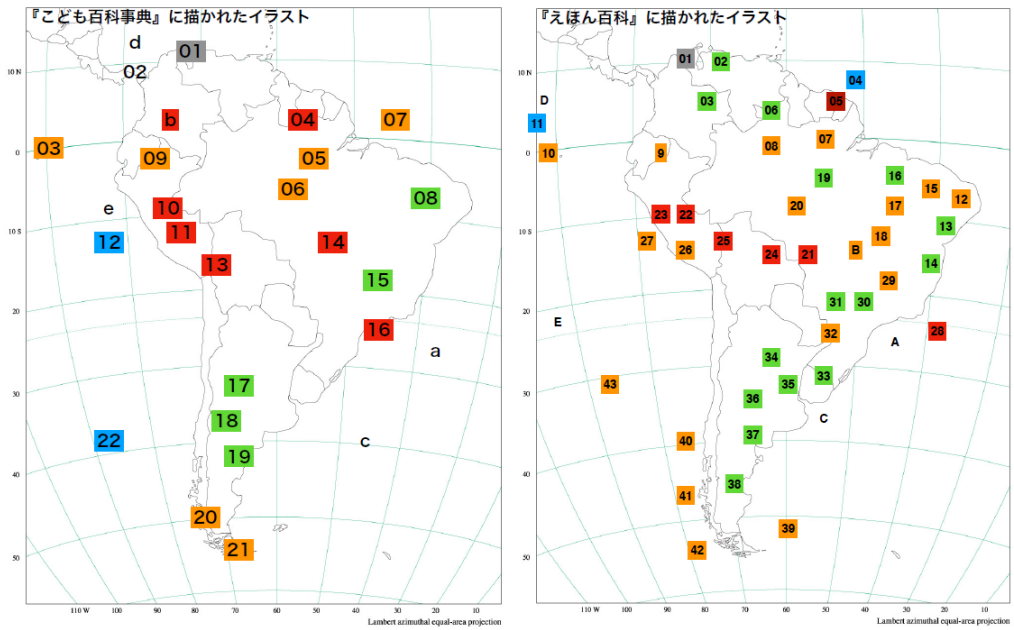


図5 子供向け百科事典の南アメリカの項に描かれたイラストとその位置

注：地図中の英字・数字は表5の英字・数字と対応する。  
 凡例は図1に同じ。

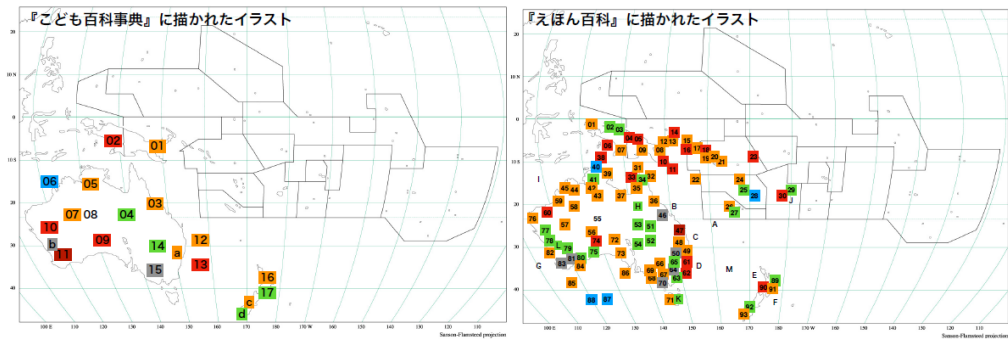


図6 子供向け百科事典のオセアニアの項に描かれたイラストとその位置

注：地図中の英字・数字は表6の英字・数字と対応する。  
 凡例は図1に同じ。





表2 こども向け百科事典のヨーロッパの項に記載された文字情報とイラスト

国名	地図に表記された文字			地図に描かれたイラスト		
	都市名	地名	特徴的な事物や事象など(※)	(※) に対応するイラストの地図上の位置	文字で説明されていないイラスト	その地図上の位置
こども向け百科事典	モスクワ	ウラズル	ウラズル	1	森林	a
	モスクワ	ウラズル	ウラズル	2	森林と家	b
	モスクワ	ウラズル	ウラズル	3	羊の群	c
	モスクワ	ウラズル	ウラズル	4	森林	d
	モスクワ	ウラズル	ウラズル	5	客船	e
	モスクワ	ウラズル	ウラズル	6	ヨット	f
	モスクワ	ウラズル	ウラズル	7	神殿	g
	モスクワ	ウラズル	ウラズル	8	船	h
	モスクワ	ウラズル	ウラズル	9	スカンディナヴィア山脈	i
	モスクワ	ウラズル	ウラズル	10	森林	j
	モスクワ	ウラズル	ウラズル	11	牛	k
	モスクワ	ウラズル	ウラズル	12	牛	l
	モスクワ	ウラズル	ウラズル	13	ディアル・アルプス	m
	モスクワ	ウラズル	ウラズル	14	釣船	n
	モスクワ	ウラズル	ウラズル	15	すき	
	モスクワ	ウラズル	ウラズル	16	うづら	
	モスクワ	ウラズル	ウラズル	17	てっとうび	
	モスクワ	ウラズル	ウラズル	18	ちゅうりっぷ	
	モスクワ	ウラズル	ウラズル	19	すき	
	モスクワ	ウラズル	ウラズル	20	すいすい	
	モスクワ	ウラズル	ウラズル	21	びん	
	モスクワ	ウラズル	ウラズル	22	かみ	
	モスクワ	ウラズル	ウラズル	23	ぶどう	
	モスクワ	ウラズル	ウラズル	24	とうき	
	モスクワ	ウラズル	ウラズル	25	すいすい	

**色の凡例**

- 文化・習俗・くらしなど
- 野生動物・自然景観など
- 水産資源
- 産業・家畜
- 林業
- 加工業
- 分類できないもの

国名	地図に表記された文字			地図に描かれたイラスト		
	都市名	地名	特徴的な事物や事象など(※)	(※) に対応するイラストの地図上の位置	文字で説明されていないイラスト	その地図上の位置
えほん百科	マドリード	ウラズル	せきたん	1	木の枝	A
	マドリード	ウラズル	せきたん	2	動物	B
	マドリード	ウラズル	せきたん	3	客船	C
	マドリード	ウラズル	せきたん	4	こむぎ	D
	マドリード	ウラズル	せきたん	5	遊里を引く牛	E
	マドリード	ウラズル	せきたん	6	飛行機	F
	マドリード	ウラズル	せきたん	7	客船	G
	マドリード	ウラズル	せきたん	8	客船	H
	マドリード	ウラズル	せきたん	9	飛行機	I
	マドリード	ウラズル	せきたん	10	客船	J
	マドリード	ウラズル	せきたん	11	客船	K
	マドリード	ウラズル	せきたん	12	ぶどう	L
	マドリード	ウラズル	せきたん	13	ぶどう	M
	マドリード	ウラズル	せきたん	14	ぶどう	N
	マドリード	ウラズル	せきたん	15	教会	
	マドリード	ウラズル	せきたん	16	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	17	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	18	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	19	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	20	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	21	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	22	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	23	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	24	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	25	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	26	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	27	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	28	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	29	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	30	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	31	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	32	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	33	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	34	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	35	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	36	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	37	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	38	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	39	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	40	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	41	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	42	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	43	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	44	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	45	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	46	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	47	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	48	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	49	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	50	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	51	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	52	むく	
	マドリード	ウラズル	せきたん	53	むく	



表4 こども向け百科事典の北アメリカの項に記載された文字情報とイラスト

国名	地図に記載された文字			地図に描かれたイラスト		
	都市名	地名	特徴的な事物や事象など(※)	(※) に対 応するイラ ストの地図 上の位置	文字で説明 されていない イラスト	その地図 上の位置
こども 百科 事典	カナダ	おたわ	グリーランド	こおりのいえ	1 森林	a
	あめりかがっしゅうこく	たいせいよう	ほっきょくくま	2 フラスカ山脈	b	
	めきしこ	おしんとん	けーぶけいでい	えすきもーといぬぞり	3 自動車工場	c
	まっしーびがわ	しかご	みっしーびがわ	へらじか	4 客船	d
	ろまんげるす	ろまんげるす	ろまんげるす	たの	5 パナナ	e
	めきしこしもー	たいへいよう	となかい	6 砂糖	f	
		めきしこわん	かりふーのむれ	7 バンナム壘	g	
		かりふかい	ないあがらのたき	8 サボテン	h	
			もくざい	9		
			こむぎ	10		
			こむぎばなけ	11		
			さけつり	12		
			ばるぶこうじょう	13		
			わた	14		
			かいついよく	15		
			いんでいあん	16		
			かうぼーい	17		
			せきゆ	18		
			もくざい	19		
			くだもの	20		
			でいずにーらんど	21		
			さけ	22		
			せいうち	23		
			まやのいせき	24		
			ばなまうんが	25		

**色の凡例**

文化・習俗・くらしなど

野生動物・自然景観など

水産資源

農業・家畜

林業

鉱工業

分類できないもの

国名	地図に記載された文字			地図に描かれたイラスト			(左下40の続き)
	都市名	地名	特徴的な事物や事象など(※)	(※) に対 応するイラ ストの地図 上の位置	文字で説明 されていない イラスト	その地図 上の位置	
カナダ	シアトル	グリーンランド	回かもの	1 貨物船	A	造船所	41
アメリカ合衆国	ボストン	バフィンランド	ほっきょくくま	2 飛行機	B	自動車工場	42
メキシコ	ニューヨーク	ハドソン湾	食料のあざらしを保存するエスキモー	3 客船	C	とまつ所	43
グアテマラ	ワシントン	アラスカ	ハープあざらし	4 飛行機	D	ぶた	44
エルサルバドル	マイアミ	ニューファンドランド島	ノルマン人エリックがグリーンランドに上陸(982年)	5		からすむぎ	45
キューバ	ニューオーリンズ	セントローレンス川	ほっきょくくま	6		とうもろこし	46
ハイチ	ロサンゼルス	ロッキー山脈	にしん	7		エローストンの温泉	47
ドミニカ	メキシコシティー	五大湖	せいうち	8		カリフォルニアあしか	48
ジャマイカ		オンタリオ湖	エスキモーと家の家	9		わた	49
ホンジュラス		エリー湖	ふりりあざらし	10		海水浴	50
ニカラグア		ヒューロン湖	皮ぼりの舟であざらしをとるエスキモー	11		カワボーイ	51
コスタリカ		ミシガン湖	へらじか	12		せきゆ	52
パナマ		スベリオル湖	となかい	13		精造所	53
		ナイアガラのたき	ほっきょくくま	14		アイスクリーム	54
		フロリダ半島	しんかば	15		えおづのいよう	55
		ミッドサピ川	しんかば	16		ネバタ核実験場	56
		メキシコ湾	じやこうらし	17		せきゆ	57
		グラッドキヤニオン	チペワ族	18		金門橋	58
		プエルトリコ島	パイソン	19		映画の題ハリウッド	59
		西インド諸島	もくざい	20		いるかの一匹	60
		カリフォルニア半島	金	21		パイナップル	61
		太平洋	ロッキーやぎ	22		バナナ	62
		大西洋	トーチム・ボール	23		コロンブスが西インド諸島に上陸した(1492年)	63
			インガリタ族	24		やさい売り	64
			にしん	25		わた	65
			たら	26		たばこ	66
			もくざい	27		まとうきび	67
			せきたん	28		たばこ	68
			ミュールじか	29		おおあじさし	69
			ナスカド族	30		とらごめ	70
			オタワ族	31		うちわりサボテン	71
			たら	32		おほしらすサボテン	72
			もくざい	33		こむぎ	73
			製粉工場	34		バナナ	74
			こむぎ	35		せきゆ	75
			しろがしらわし	36		マヤの遺跡	76
			ひつじ	37		マヤの遺跡	77
			さけ	38		マヤの石像	78
			自由の女神	39		ブラジルばく	79
			ホワイト・ハウス	40		バナナ壘	80
						パナマ運河	81

(右41に続く)

表5 こども向け百科事典の南アメリカの項に記載された文字情報とイラスト

国名	地図に表記された文字			地図に描かれたイラスト		
	都市名	地名	特徴的な事物や事象など(※)	(※) に対応するイラストの地図上の位置	文字で説明されていないイラスト	その地図上の位置
こども百科事典	ブラジル	ボゴタ	あまぞんがわ	せきゆ	1 貨物船	a
	アルゼンチン	ブラゾリア	がらばごすとう	ばなまうんが	2 集落	b
	ペルー	リオデジャネイロ	あんですさんみやく	うみとかげ	3 貨物船	c
	チリ	プエノスアイレス	らぶらたがわ	ゆかのたがいえ	4 貨物船	d
			いぐあすのたき	ねったいぎよ	5 貨物船	e
			ばたごにあさばく	じゃがー	6	
			まぜらんかいきょう	まなてい	7	
			たいせいよう	うし	8	
			たいへいよう	あるまじろ	9	
				いんかのいせき	10	
				ちちかこのあしふね	11	
				あんちょびー(いわしのなかま)	12	
				いんでいおのまち	13	
				にっぽんじんのいみん	14	
				こーひー	15	
				かすいよく	16	
				こむぎ	17	
				うし	18	
				ぶどう	19	
				ひょうが	20	
				まぜらんべんぎん	21	
				しろながすくじら	22	
えほん百科	ベネズエラ	ボゴタ	フランス領ギアナ	せきゆ	1 貨物船	A
	ガイアナ	カラカス	スリナム	カカオ	2 わに	B
	コロンビア	ブラゾリア	アマゾン川	どうもろこし	3 貨物船	C
	エクアドル	リオデジャネイロ	アンデス山脈	ぎよぎょう	4 貨物船	D
	ペルー	サンパウロ	ラプラタ川	もくざい	5 客船	E
	ブラジル	モンテビデオ	マゼラン海峡	ゴム	6	
	ポリビア	プエノスアイレス	太平洋	あおぼうしりんこ	7	
	パラグアイ	サンチアゴ	大西洋	めがねカイマン	8	
	ウルグアイ			ブラジルばく	9	
	アルゼンチン			ガラバゴスペンギン	10	
	チリ			まっこうくじら	11	
				はなぐま	12	
				こーひー	13	
				たばこ	14	
				ばんれいし	15	
				わた	16	
				ポア	17	
				おおありくい	18	
				ゴム	19	
				ジャガー	20	
				ポロ口族	21	
				チャンカ族	22	
				インカの遺跡マチュピチュの太陽の祭壇	23	
				アイマラ族	24	
				チチカカ湖のあし舟	25	
				ピクーナ	26	
				フンボルトペンギン	27	
				いかだでくらすゴヤタカ族	28	
				ビューマ	29	
				こーひー	30	
				こむぎ	31	
				イグアスのたき	32	
				うし	33	
				うま	34	
				どうもろこし	35	
				ぶどう	36	
				こむぎ	37	
				ひつじ	38	
				いわとびペンギン	39	
				バタゴニアあしか	40	
				キングペンギン	41	
				マゼランペンギン	42	
				みずなぎどりの一種	43	

色の凡例  
 文化・習俗・くらしなど  
 野生動物・自然景観など  
 水産資源  
 農業・家畜  
 林業  
 鉱工業  
 分類できないもの

表6 こども向け百科事典のオセアニアの項に記載された文字情報とイラスト

	地図に記載された文字			地図に描かれたイラスト			
	国名	都市名	地名	特徴的な事物や事象など (※)	(※) に対応するイラストの地図上の位置	文字で説明されていないイラスト	その地図上の位置
こども百科事典	オーストラリア	シドニー	トゥービーにあとう	おおふうちょう	1	グレードディバイディング山脈	a
	ニュージーランド	メルボルン		みずのうえのいえ	2	工場?	b
		ウエリントン		こあらべあ	3	クック山	c
				ひつじとかうぼーい	4	羊	d
				えりとかげ	5		
				しんじゅとり	6		
				かんがるー	7		
				じゅうだんどうろ	8		
				ひこうきでしんさつにいくい	9		
				ぶーめらんをなげるとじん	10		
				もくざい	11		
				さんご	12		
				なみのり	13		
				こむぎ	14		
				じどうしゃこうじょう	15		
				かんけつせん	16		
				ぼくちく	17		

**色の凡例**

- 文化・習俗・くらしなど
- 野生動物・自然景観など
- 水産資源
- 農業・家畜
- 林業
- 鉱工業
- 分類できないもの

	地図に記載された文字			地図に描かれたイラスト				(左下50の続き)	
	国名	都市名	地名	特徴的な事物や事象など (※)	(※) に対応するイラストの地図上の位置	文字で説明されていないイラスト	その地図上の位置	特徴的な事物や事象など (※)	(※) に対応するイラストの地図上の位置
えほん百科	オーストラリア	ポートモレスビー	太平洋	ひくいどり	1	貨物船	A	ひつじ	51
	ニュージーランド	ダーウィン	アラフラ海	わた	2	貨物船	B	ひつじ	52
		ブリスベン	サンゴ海	たばこ	3	貨物船	C	うし	53
		シドニー	西イリアン	教会	4	貨物船	D	うし	54
		キャンベラ	ソロモン諸島	パパア族	5	貨物船	E	南北を結ぶ道路	55
		メルボルン	ビスマック諸島	水上の家	6	貨物船	F	さばく	56
		アデレード	カーペンタリア湾	おおふうちょう	7	貨物船	G	さばく	57
		パース	ニューヘブリジズ諸島	マンゴロープの林	8	牛追い	H	はいいろカンガルー	58
		オークランド	フィジー諸島	ニューギニアのしし	9	飛行機	I	草原	59
		ウェリントン	エア湖	樹上の家	10	客船	J	オーストラリアネグロ	60
			ダーリング川	くり舟	11	果物	K	ハーバー・ブリッジ	61
			マーレー川	ココヤシ	12	ひつじ	L	海水浴場	62
			タスマニア島	たこのき	13	飛行機	M	メリノ	63
			チモール海	やしのみをわる原住民	14			せきたん	64
			グレートオーストラリア	いんこの一産	15			こむぎ	65
				水上の家	16			へらさぎ	66
				ココヤシ	17			コアラ	67
				メラネシア人	18			かものほし	68
				活火山	19			こくちょう	69
				いんこの一産	20			精油所	70
				ココヤシ	21			いわとびペンギン	71
				おながぎめ	22			アカシア	72
				ヤシの葉であんだ帆をかけた	23			あかカンガルー	73
				2 そういかなヌー	23				
				ココヤシ	24			キャラバン (輸入したらくだ)	74
				パパイヤ	25			ひつじ	75
				へいわいんこ	26			アカシア	76
				コーヒー	27			ひつじ	77
				しんじゅとり	28			りんご	78
				バナナ	29			こむぎ	79
				交通調査	30			ひつじ	80
				ココヤシ	31			金	81
				さんご	32			いわとびペンギン	82
				オーストラリアネグロ	33			工場	83
				バナナ	34			こびとペンギン	84
				ばんれいし	35			あおつらかつおどり	85
				ユーカリのき	36			みなみあしか	86
				ユーカリのき	37			ほげい船	87
				うき木をつけたカヌー	38			ぎとくじら	88
				たこのきの一産	39			うし	89
				しんじゅとり	40			マオリ族	90
				うし	41			活火山	91
				ワラルー	42			ひつじ	92
				ワラルー	43			キワイ	93
				いりえわに	44				
				たこのき	45				
				金	46				
				もくざい	47				
				ウォンバット	48				
				わらいかわせみ	49				
			せきゆ	50					

(右上51に続く)

表7 各百科事典における記述

	えほん百科の記述		こども百科事典の記述
アジア	アジアは、地形が複雑に入り組んでいる地域です。世界最高峰のエベレスト山のあるヒマラヤ山脈などで、南北に大きく分けられ、さらに、その他の山脈で細かく区切られています。そのため、大きな気候や砂漠などもあり、人々の交通を妨げてきました。気候も複雑で、北のツンドラの寒帯がある一方、南の赤道の熱帯もあります。中華人民共和国は面積960万平方キロ、人口6億を、インドは面積300万平方キロ、人口4億、3千万で、アジアではもちろん世界でも人口の最も多い国です。	アジア	世界で一番大きな大陸です。ここには、世界中のおよそ半分以上の人が住んでいます。緑豊かな気候のところと、1年半乾いたところと、寒いところなど色々な地方があります。アジアには、日本を除く30以上の国があります。日本の隣の、朝鮮とは昔から深いつながりがあります。朝鮮の人々は日本にたくさん住んでいます。中国やインドは世界の半でも、最も古くから開けた大陸です。
ヨーロッパ	ヨーロッパはアジアよりも広い。ケルン山脈、カス皮海、黒海に西の地域です。南に囲まれて、気候は暖かぬれで、農業や牧畜がよです。牧畜が工業も盛んです。ソビエト連邦はアジアにまたがり、面積2400万平方キロ、人口は2億5千万にのび、東ヨーロッパだけでもヨーロッパ1位です。その草原は海から遠く、冬長く、夏暑いところでも。	ヨーロッパ	アジアと続く大陸です。地球のかなり北のほうにあるのですが、南に囲まれているので、気候は割合暖かです。ですから、昔から、人がたくさん住み、多くの国があります。4年1月、フランス・ドイツなどの国では早くから色々な学問や研究が進んで、音楽・絵・小説なども世界的にも盛んです。そして、他の大陸の国々よりヨーロッパから多くのことを学んでいます。
アフリカ	アフリカは、長い間他の国がつかない(領土)と呼ばれていましたが、探検が繰り返されて、次第に明らかになりました。また世界でも、最も古い残された(領土)でもあったのです。20世紀の初め、アフリカ全土はほとんど、西ヨーロッパ諸国の植民地として、分割されてしまいました。それが第一次大戦後、特に第二次大戦後になって、アジア諸国の独立に刺激されて民族解放運動も激しくなり、相次いで独立して、アフリカから植民地がなくなる日も近くなりました。アフリカは資源の豊かさを誇り、一年中暑いところですが、ジャングルや草原、砂漠も広く、動物もたくさんいます。ダイヤモンドや金など豊富な資源がありますが、その開発は遅れています。歴史は昔ながらの農業や牧畜に定着して、生活は遅く、教育も遅れています。	アフリカ	アジアの次に大きな大陸です。けれども、住んでいる人の数は少なく、これら開けるところの多い大陸です。北のほうには、広い砂漠があります。南のほうは大きな気候がとくさん残っているジャングルと、広い草原があります。ここには色々な動物が住んでいます。シマウマ・キリン・ライオン・ゾウなど、アフリカは本場に動物の国です。アフリカではたたくさんの石油や石炭・銅などがありますが、今まではあまり利用していませんでした。近頃は工場も多くなり、セメント・機械などを作っています。
南北アメリカ	アメリカ大陸は、コロンブスなどの探検で発見された新大陸で、新世界とも呼ばれ、北アメリカと南アメリカに分けることができます。西側には、雪や氷をいたいた、ロッキー、アンデスの山脈が走り、東側には、高嶺や平野が広がっています。南北に長いので、北アメリカの北部はツンドラの寒帯、赤道近くの、ブラジルからメキシコ南部にかけては熱帯で、他は温帯と砂漠、草原地帯となっています。アメリカ合衆国は面積990万平方キロ、人口1億8千万人で、農業も鉱工業も、極めて盛んです。	北アメリカ 南アメリカ	コロンブスが見つけた、イギリス人やフランス人が開いた大陸です。南北に長く、気候も暑いところ、寒いところなどありますが、割合、緑や気候の地方が多く、人々の暮らしも豊かです。アメリカ合衆国・カナダ・メキシコなどの国があります。石油・石炭・鉄などがとくさんとれ、機械を使って、広い畑にコムギ・ワタなどを作っています。北の方では木材がとくさんできます。アメリカ合衆国は世界で最も豊かな国で、自国と自国をつながりがあります。
オセアニア	オセアニアは、大洋州とも呼ばれ、オーストラリア、ニュージーランド、ニューギニアの他、太平洋の数々の島々を含む地域です。ここでは、オーストラリア、ニュージーランド、ニューギニアを中心に、その近くの島々も取り上げられました。この地域は、南(オーストラリア)の多いところで、探検が盛んになり、島には原住民がやぶをまとるココヤシが盛っています。オーストラリアは大陸で、火山は多く、自国もありませんが、他の島には、火山が多く、今なお火を吐いて活動する活火山もみられます。	オセアニア	大きなオーストラリアをはじめ、ニュージーランド・ニューギニアなど太平洋にあるたたくさんの島をオセアニアと言います。オーストラリアは一帯で、島々も数多くありますが、住んでいる人は少なく、小島をとり、セツジウなどを作っています。住んでいる人の数もセツジウが、セツジウから取れる羊毛は世界一です。カンガルー・コアラなど珍しい動物がいます。

原文は漢字の使用を避け、平仮名が多用されている。ここでは漢字に置き換えるなど、一部改変している。

表8 地域別事象別集計

こども百科事典	アジア	ヨーロッパ	アフリカ	北アメリカ	南アメリカ	オセアニア	計	%
(A) 自然的事象	11	5	11	8	7	8	50	23.0
(B) 文化的事象	15	12	12	7	7	4	57	26.3
(C) 経済的事象	30	18	10	15	8	8	89	41.0
(C1) 農業・家畜	11	8	7	7	5	4	42	19.4
(C2) 水産資源	8	2	0	2	2	1	15	6.9
(C3) 林業	3	6	0	4	0	1	14	6.5
(C4) 鉱工業	8	2	3	2	1	2	18	8.3
その他	5	4	3	3	5	1	21	9.7
計	61	39	36	33	27	21	217	100.0
%	28.1	18.0	16.6	15.2	12.4	9.7	100.0	
えほん百科	アジア	ヨーロッパ	アフリカ	北アメリカ	南アメリカ	オセアニア	計	%
(A) 自然的事象	32	36	82	24	19	44	237	30.8
(B) 文化的事象	34	19	44	21	6	17	141	18.3
(C) 経済的事象	81	109	65	33	19	34	341	44.3
(C1) 農業・家畜	39	58	47	16	15	23	198	25.7
(C2) 水産資源	9	11	2	6	2	4	34	4.4
(C3) 林業	4	14	3	3	1	1	26	3.4
(C4) 鉱工業	29	26	13	8	1	6	83	10.8
その他	13	8	8	6	4	11	50	6.5
計	160	172	199	84	48	106	769	100.0
%	20.8	22.4	25.9	10.9	6.2	13.8	100.0	

---

〈著者略歴〉

荒木 一視（あらかし ひとし）

1987年広島大学卒業，1993年広島大学大学院文学研究科単位修得退学，博士（文学），現在，立命館大学食マ  
ネジメント学部教授